高退協文芸

川柳

帆傘抄

小澤　幸泉

終活と断捨離妻に急かされる
コロナには負けぬ恐（愛）妻側（そば）にいる
天国に近い眠りに誘われる
それでよい一声今朝を立ち上がる
八十代生きてるタイコ打ちつづけ
困ったな孫子の名前忘れてる
生きてます（祖）母の遺影に呼びかける

俳句

花蘇鉄の四季

小澤　幸泉

桜散るひとひらひとつ触れながら
山桜何を聞いても答えない
故里が時々見える梅雨晴れ間
（祖）母の背で黙って聞いた終戦日
長崎忌鐘は平和を告げ知らせ

短歌

チャレンジ始める

田上悦子

小さき（ち）文字詰まるページに我が歌と名を見つけたり佳作なれども
全てボツもあれどチャレンジ投稿は短歌雑誌をひらく楽しみ
秀逸や特選入りは遥けきも未来のいつかを夢みて詠う

湯水のように

山本晶子

原発は貧しき町に建ちておりそれにて生活成り立ちしとう
国民に使うべき税金米軍に湯水のようにつぎこみ続け
（同盟国27カ国中の一位）
バーバリーの服大量に燃やされゆく資本主義の世の徒花（あだばな）のごと

蝉声はげし

叶岡淑子

コロナ禍の詳細ニュースは省略し"五輪一色"テレビ報道
科学よりも人命よりも収益を選びし五輪の興興業主ら
感染者自宅はたまた入院か無策同然蝉声はげし